



さと
やすらぎの郷



若かりし日の内田美津子様
(本誌内「それぞれの物語」に登場)



Inauguration greeting

医務課長就任あいさつ



医務課長 桑原 淑子

初夏の候、皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は「やすらぎの郷」へ格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見通しが立たずご心配されていることと存じます。

私は、令和3年4月1日付けで福岡赤十字病院から転勤して参りました医務課長の桑原淑子と申します。福岡赤十字病院では消化器内科・整形外科・血液透析室・腎臓内科・循環器内科・小児科・糖尿病内科と様々な病棟勤務と外来・地域連携室等多岐にわたる知識と経験を得ることができました。この経験を活用し、入居者様及びご家族の皆様が安心して日常生活をお過ごし頂けるように、健康面の管理の立場から尽力致しますのでご指導のほど宜しくお願い致します。就任しての初めての大きな仕事が、新型コロナウイルス感染症の施設内クラスター発生防止の為に全職員の協力の下徹底した感染防止策の遂行です。また、入所者様及び職員のワクチン予防接種を、囑託医のうえの病院様のご協力を頂き1回目を5月17日～5月28日、2回目を6月7日～6月18日に安全に終了することができました。家族の皆様には大変ご迷惑おかけしている面会制限は、今後の新型コロナウイルス感染症の動向をみて、感染防止を充分図る工夫を取りながら緩和に務める所存です。

まだまだ予断を許さない状況が続きますが入所者様の笑顔と暖かな微笑ましい日常が継続していけるように努めて参りますので宜しくお願い致します。



新型コロナウイルスのワクチン接種



日本各地で新型コロナウイルスのワクチン接種が行われていますが、やすらぎの郷でも、特養ご利用者様、職員に2回のワクチン接種を行いました。

一部、種々の事情により接種できない方もいらっしゃいましたが、全体で90%以上の皆様にワクチンを投与することができました。

頻回なご家族との面会や、外部ボランティアによるサークル活動、地域と一緒に楽しんだ秋祭りなど、以前のような状況に戻るには、まだかなりの月日を要すると思いますが、このワクチン接種が1歩目となることを祈っています。



後藤 裕子氏 エアマットレス2台寄贈

前医務課長 後藤 裕子様は、昭和57年3月日本赤十字社に看護師として入社以来、約39年にわたり職務に精励され、やすらぎの郷には平成30年4月に赴任。当施設の発展に多大な貢献をされ、令和3年3月31日付で退職されました。

この度、後藤様から当施設にエアマットレス2台を寄贈いただきました。ありがとうございました。



＼ありがとうございました／





やすらぎの郷は人の想いを支えます



東棟ご利用者の内田美津子様(79歳)の長女さん、次女さんからお話を伺いました。

『母は早良区の西新、賑やかな土地に、姉と弟の三人兄弟の次女として生まれました。昭和20年6月19日、当時4歳だった母は福岡大空襲を経験し、その時は祖母の判断でビルの地下には逃げ込まずに、難を逃れたという話を何度か聞いた事があります。』と語り始めて下さいました。

福岡大空襲、梅雨時期のほんの晴れ間の1日だったそうです。221機ものアメリカ軍のB29爆撃機がやってきた。そして夜空に焼夷弾の雨が、きらめきながら市の中心部、新柳町、薬院、六本松、鳥飼、西新方面にまで降り注ぎ、全市は赤い火の海に包まれ『ドーン』という音や『ドカーン』『ザー』という音、かなりの振動もあったそうです。大濠公園に逃げ込む人が多く、今で言う花火大会に集まる人以上だったそうです。その中で色々な判断で逃げ難を逃れてとても恐ろしい経験をしたのだなど、胸が痛くなるような思い出だなど感じました。

時は過ぎ、百道小学校、百道中学校を卒業。好きな科目は国語で、特に漢字が得意だったそうです。文学に興味があったからなのか、卒業して印刷関係(写植)の仕事をしていました。詳しい仕事の内容は聞いた事がなかったそうで、『今になって何も話してきてなかった・・・』と少し涙を浮かべながら一生懸命に答えて下さいました。『結婚した年齢も自分の歳を考えると、27~28歳頃だろう。父とはお見合い結婚だったような・・・』『母が好意を抱いたのか？、父の猛アタックで結婚にいたったのか？』は妄想で。そして2人の間に長女さん、次女さんを授かり、母としての人生がスタートしました。



美津子様はどんなお母様だったのでしょうか？

娘さん達が大人になってから美津子様より『あなたたちは女の子だったから、本当に手がかからなかった。』といわれた事があるそうで、『声を荒げるように怒られ

た事はあまり記憶になかった』。との事。自分の事はさて置き、子供たちの事を優先してくれるようなお母さん。着る物なども必要最低限のものしか買わない。贅沢もしていなかったそうです。長女さんは『私はよくお父さんとケンカをして、お母さんが間に入ってくれてたから、それは大変だったんじゃないかな』また、『甘いものが大好きでそれを食べながらドキュメンタリーを見るのが唯一の楽しみだった。』と色々な思い出を語って下さいました。

女性は甘いものに弱いですね。だけど家を守る、家庭を守る、力強く優しくあたたかいお母さんだった美津子様を想像することができました。

美津子様との思い出は？

結婚後、大牟田⇒清川⇒志免へと転居。志免町に転居し、娘さん達が小学校に入った頃より、西友にパートで勤めたそうです。『ずっと西友に勤めてて、それこそ月曜日だけが休み。一度だけ太宰府園に連れて行ってもらったことがあるくらいかな』『だけどそれはかなり小さい時だね。記憶はないけど写真に残ってたから・・・』西友に勤め、休みは毎週月曜日のみ。真面目で責任感の強い美津子様は、土日は店が忙しいため休むことができず、遊びに連れて行くことができなかったそうです。休みの日は父と留守番。『家が坂の上に建ってたから、いつもきつきついとってたな』『仕事にも歩いて行ってたしね』



娘さん達は、家族で出かけることがほとんどできず寂しい思いもされたようですが、『趣味を持つこともせず



家庭を支えるために頑張ってくれていたことに感謝しかない』と語って下さいました。また『お母さんは、『テレビの「世界遺産紀行」等のドキュメンタリーの番組がとても好きだったから、よく外国に行ってみたいと言って

ました』『時代の風潮なのか、自分の為になにか楽しむ時間がほとんどなかった』『60歳といえど子育ても終わり、仕事を定年して第二の人生を送っている頃なのに…元気があったら一緒に行けたのに…』

美津子様は60代という若さで認知症を発症

『同じ事を何回も言うな…と、うすうすは認知症ではないかと思っていたけど、なかなか病院に連れて行く勇気がなく…。本人も積極的に病院に行くという行動もなく、ただただ月日だけが過ぎていきました』と当初の頃を振り返られました。最終的に大学病院の物忘れ外来を受診し、認知症と診断されたそうですが、美津子様は取り乱したりするような素振りもなく、『ただただ不安そうに見えました』『家族に迷惑をかけるのかも…』と優しい美津子様は思っていたのかもしれませんが。

『私も妹もお母さんのことが大好きだから、ちょっとずつ、いつものお母さんじゃなくなるのが、それが一番辛かった。』『ある程度進行してしまえばあきらめというか受け入れられたけど、たまに普通のときもあって…、(認知症が)まだらな時が一番辛かった。』と涙を浮かべ話してくれました。『仕事をしながらの介護だったので、最初から介護サービスを利用していましたが、共倒れになってはいけないので、そういった支援を受けるのも大事だと思って、また『いい施設を探すのが大変だし、見つけても合わなかったという話を



聞いていたけど、近所の方から、やすらぎの郷のデイサービスがいいよと教えてもらい、最初からやすらぎの郷さんにお世話になって、ずっと良くしてもらえて、

それだけはほんとラッキーだったと思います。』と有難いお言葉をいただきました。

2017年に特養に入所。『デイサービスから特養に移りましたが、介助して一緒にご飯を食べたりする事も出来ました』『その時は父も一緒に過ごせました』と。御主人はその後、永眠されたそうですが、ほんのわずかな時間でも大切に過ごすことができた喜んでいただきました。『葬儀にも喪服に着替え、施設の方が付き添いで最後のお別れに来てくれたのでよかったです。』

これからの希望は？

『ここ1年半コロナで面会も出来ない状態で、とにかく早く面会できる状態になってくれたらいいなと思います。今も職員さんに食事の介助には注意をしていただいていると思うんですけど、飲み込みの状態もあまり良い状態ではないので、いつまで口から食べられるのかな。それが出来るだけ長く続いてくれたらいいなと思います。そして、これからもよろしくお願いします』

インタビューを終えて

今回、娘さん達から色々なお話を聞かせていただきありがとうございました。

美津子様のあまりにも早い認知症の発症で、若かった娘さん達が、十分な知識も無い中でのご苦労と、変わり行く母を見ていく辛さを感じ取る事ができました。

私たちは、そんなご家族の気持ちや思いを引き継ぎ、ご家族の代わりとなって、お一人お一人と向き合い関わりをもっていこうと改めて感じました。

コロナ禍で面会制限があり容易に会う事ができませんが、自由に面会できるようになった際には、まだまだ沢山の思い出作りをしてほしい。そう感じたインタビューでした。

※福岡大空襲に関連する記述は、「福岡大空襲語り部」から一部引用。

Happy birthday 100 years old 100歳のお誕生日 おめでとうございます!

今年3月に、板谷八重子さんが、めでたく100歳のお誕生日を迎えられました。

新型コロナの影響で面会制限中でしたので、アクリル板を介しての記念撮影となりましたが、ご本人様を祝ってのご家族の想いは、しっかりとお届けできたのではないかと存じます。これで、現在、やすらぎの郷のご利用者では2名の方が100歳以上ということになります。

板谷様のこれからのご健勝を祈念するとともに、早く新型コロナ感染が落ち着いて、以前のように、多くのご家族とご利用者の交流機会が再開できることを願っています!!



デイサービス



Day Service

デイサービスご利用者様の声

親子でつなぐやすらぎの郷との縁 古賀恵美子様(84歳)にお話を伺いました。

やすらぎの郷デイサービスを知ったのはいつですか？

「私の母、大井ハマさんは20年くらい前にやすらぎの郷デイサービスを利用していました。父が戦死して母一人子一人になり、私は中学を出て仕事をするようになりました。結婚し39歳で子供をもうけましたが、ずっと母がそばにいてくれて家のことをしてくれたおかげで、全力投球で大好きな仕事を続けることができました。ありがたいです。

夫が亡くなり私も仕事がありましたし、外出の機会が減っていた母と相談した上で、やすらぎの郷デイサービスに行くことになりました。」



若かりし時の大井ハマ様



やすらぎの郷デイサービスの印象は？

「母は大人しい人だったけど、喜んで通っていましたよ。日々いろんな活動をしてくれて、デイに行くとても笑顔で過ごしているようでしたから。職員の方々が明るいおかげですね。ここの夏祭りは毎年母と参加しましたよ。屋台や盆踊り、そして花火大会がとっても盛大だったんです。こんなに楽しいところで過ごせてやすらぎの郷に出会えた母は幸せだったと思います」



大井ハマ様(やすらぎの郷、桜の木の下で)

やすらぎの郷へ通われるきっかけは？

「母を取った後もやすらぎの郷さんへの恩は忘れていませんでした。『私が通所するときは絶対にやすらぎの郷さん!』と決めてましたから。ケアマネージャーさんにそう言ったんです。」

やすらぎの郷デイサービスはいかがですか？

「母が過ごした場所に私も座っていることが不思議ですがこれも縁ですね。久しぶりのやすらぎの郷で当時の母との思い出がよみがえりました。20年前、新人だったI君が今じゃ係長でしょう？びっくりしましたよ！その頃飼っていた愛犬のマリちゃんを覚えてくれて嬉しかったです。今は週1回の通所を楽しみの一つに、家ででの生活を自分らしく全力で過ごしています。これからもお世話になります。」



お母様と同じ桜の木の下で

お話を伺って

今回お話を伺ってお母さまの大井ハマ様と古賀様の絆の深さを感じることができました。母をやすらぎの郷さんに通わせてよかった、と仰ってくださる古賀様に、職員一同、恩返しできるよう今後も楽しい時間を提供していきたいと思っております。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました！

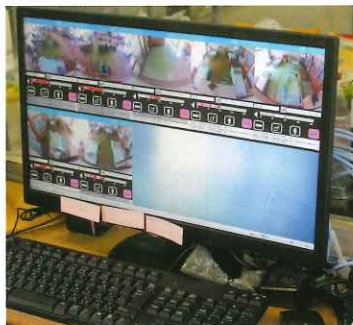


オンライン交流会 Online

緊急事態宣言中の5月11日、以前から、やすらぎの郷へ交流訪問をしていただいている宇美商業高校家庭科クラブの皆さんとオンライン交流会を開催しました。家庭科クラブの皆さんが画面の中で作成したバルーンアートを放り投げると、実際に届くというサプライズな内容の交流会でした。(事前にバルーンアートを持参していただきました)。

参加したご利用者は、動物や花の形をしたバルーンを手にとって、「よくできているねえ。」「色がきれいなね」など、大変喜ばれました。

新型コロナの影響により、以前のような交流会は難しい状況が続いていますが、工夫次第で、色々な交流の形があります。練習や準備など色々大変だったと思いますが、宇美商業高校家庭科クラブの皆さん、ありがとうございました。



みまもりCUBEが解決します！



離れた場所からカメラの映像をスマートフォン・パソコン・タブレットで見ることができます



ライブ映像を確認



見守りながら簡単なコミュニケーションが取れる



後記オプションで設定した動作をもとにメールで通知



みまもりカメラ(介護ロボット)を導入しました!

MIMAMORI CUBE

導入の3つの目的

1. リスクマネージメントの向上!

施設内の事故で最もウェイトの高い転倒・転落事故の防止に活用します。

2. 新型コロナウィルス等の感染症対策!

施設内でコロナ濃厚接触者等が発生した場合の状況把握、また、隔離が必要となったご利用者の見守りに力を発揮します。

3. 介護職員の業務負担軽減と人材確保!

先進的機器の導入による業務の効率化・負担軽減を図り、離職防止や人材確保の面で大きなメリットとなります。



日本赤十字社福岡県支部
特別養護老人ホーム

やすらぎの郷

〒811-2208 福岡県粕屋郡志免町大字吉原600番 TEL.092-936-2022 FAX.092-936-2135
ホームページ <http://yasuraginosato.org/cgi-bin/index.cgi>

令和3年7月発行